

郷土史*

はねだしんぞう
羽田信三さん



地域の歴史はそこに
住む者が伝えていか
なくては……

よ」と、その魅力について熱く語ります。
羽田さんは、小学生や地域の人たちに篠路地区の歴史について説明することがあります。小学校の校長先生だった羽田さんにとって、話をするのはお手のもの。「どうしたら子どもたちの興味を引くか、話が印象に残るように内容や話し方を工夫しています」と話します。
現在、篠路地区では入植百四十年記念誌の編さん準備が進められています。羽田さんもその編集委員の一人です。羽田さんが心掛けているのは、読む人により興味をもってもらうために、その時代の様子が具体的にイメージできるように内容にすること。「そのためには幅広い観点から調べることが必要。図書館で資料を探すだけでなく、地名の由来となったアイ

又語を調べ
るために、
民族学の専
門家に問い
合わせるこ
ともありま
すよ」と話
してくれま
した。
このまち
の開拓に尽
くし、骨を
埋めた人たちのことをもつと多く
の人に知ってもらいたい。そんな
思いを込めて羽田さんは今日も机
に向かっていきます。
▶昨年は北区の高齢者教
室「北親(ほくしん)大学」
で、龍雲寺の歴史につい
て講師を務めました



狙い通りにボールを
投げることができた
ときは快感ですね

おのしげる
ペタンク*小野茂さん

皆さんは「ペタンク」って知って
いますか？

これは、一チーム二、三人でボールを投げ、標的により近いボールの数を競い合う、カーリングに似たスポーツです。
麻生にお住まいの小野茂さんは、ペタンクを始めてから約十四年がたちます。老人クラブの代表として参加した高齢者講習会がきっかけでした。鉄のボールとビュットと呼ばれる標的、そして平らな土地があれば、いつ、どこでもできる気軽さが気に入った小野さん。早速、老人クラブのメンバーと一緒に、近くの公園で練習を始めたそうです。



▶ボールの重さは六百五十グラムから八百グラム(一)。スピンをかけて目標に寄せたり、はじいたり、作戦によってその投げ方も変わります



近隣に住む人たちも仲間に加わって、平成四年には「麻生ペタンクボンナミ」というチームを結成しました。「公園にたまたま散歩に来ていた人にも『やってみませんか』と声を掛けて、仲間に入れることもありますよ」と笑います。
ペタンクの魅力は「性別や年齢に関係なく、楽しめること」と話す小野さん。現在は、市内に三人しかいない三級指導員の一人として、講習会などで講師を務めています。「だれでも気軽にできる面白いスポーツ。皆さんにもぜひ挑戦してほしいですね」と、PRも忘れません。ボールを自由自在に操る小野さんは七十歳を超えているとは思えないほど、はつらつとしています。ペタンクが若さの秘けつなのかもしれませんね。
物を作り出す喜びや学ぶ楽しさ、体を動かすそう快感……。それらは、私たちの暮らしをより充実したものにします。皆さんも、何か夢中になれるものを探してみたいかがでしょう。